

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

学校整理番号	29
学校名	青森県立十和田西高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和3年2月19日(金)
学校関係者評価実施日	令和3年3月5日(金)

(1) 学校教育目標	1 心身ともに健康で、知(学力)・徳(豊かな人間性)・体(健やかな身体)の調和がとれた、「生きる力」 「未来を切り拓く力」を備えた人間の育成 2 「高い志」と「主体性」を持って社会の発展に貢献し、本県や十和田の未来を担う人間の育成 3 国際化・情報化に対応するコミュニケーション能力・情報活用能力・語学力を備えた人間の育成
------------	--

(2) 現状と課題	本校は上北地区統合校の開設に伴い、令和4年度末に閉校する。県内唯一の観光科を有する高校として、生徒・保護者・地域の期待に応えられる学校の機能整備と、新しい時代に即応した生徒の育成が求められている。生徒は純朴で素直であるが、主体的に「生きる」力の獲得に課題がある。普通科、観光科とも進学と就職希望者が混在しており、個々の特性を活かし、他者を考えた行動ができ、主体的に将来へ向け進路選択ができる生徒の育成を目指す。
-----------	---

(3) 重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導) 2 豊かな心を育む(生徒指導) 3 夢の実現を支援する(進路指導) 4 開かれた学校づくり(外部との連携)
----------	---

(4) 結果の公表	保護者には、文書で報告するとともに、学校ホームページで公開する。
-----------	----------------------------------

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4名

自 己 評 価			学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度		
1	基礎基本の徹底 十和田西高の特色を活かす	①指導方法・評価方法の工夫改善 ②学習意欲を高める授業 ③家庭学習習慣の確立 ④学科の特色を活かした教育課程 (特別非常勤講師との連携) ⑤地域貢献と学習活動の連動 ⑥読書活動の推進(継続) ⑦ICT機器の活用推進	読書習慣の定着により、授業に臨む姿勢や学習に対する意欲が向上した。夏季・冬季講習及び個別指導について全校体制で計画的に実施した。コロナ禍で制約が多い中、生徒自身が工夫を重ね外部講師と連携しながら、可能な範囲で特色ある外部実習を行うことが出来た。この貴重な経験は将来、必ず役に立つと確信できる。	B	特色のある学校なので、その強みを生かし、生徒たちにこの上ない豊かな経験と感動を与えるような活動を実施していただきたい。 外部での活動を制限された中、学校内で出来る新しい活動を取り入れ、活動を少なくするのではなく、やれる学校にしていってほしい。	・学力向上が課題である。基礎・基本に重点を置いた、学習意欲を高めるための授業を展開出来るよう、指導方法・評価方法を工夫改善していく。 ・教科における興味・感心、高い理解度を実現できるようICT機器の活用を推進する。研修等の機会を増やし全教員が機器を有効に活用出来るようにする。
2	基本的生活習慣の確立 安全・安心な学校生活→適切な初期対応	①「掃除・挨拶・5分前」の励行 ②面談を重視した生徒理解の充実 ③家庭・地域との密接な連携 ④学校行事・特別活動での自己有用感の育成 ⑤不登校生徒への早期対応と職員の情報共有 ⑥いじめの早期発見・未然防止 ⑦SNS関連事案への的確な対応と外部連携 ⑧危機管理と緊急時の的確な対応	体育祭、文化祭といった各種行事は、新型コロナウイルス感染対策を万全にするため、競技種目や実施形態を例年とは違う形で実施した。生徒会が中心となり様々な案を出し合いながら最適な形を探りながらの行事運営であった。人間関係に悩みを抱える生徒については、面談を重ね保護者や関係機関と連携しながら対応している。SNS等のトラブルもあることから、スマホ・ケータイ教室等でトラブル未然防止の観点から情報モラル教育を行っている。	B	今年度はコロナの影響により活動の制限はあったものの、逆にどんな状況下でも臨機応変な対応をすることで、何事も何とかなることを学ぶ良い機会になったのではないかと。 生徒数が減少する中で方針も変更せざるを得ないものもあると思いますが、生徒第一を念頭に工夫、検討いただければと思います。	・生徒数の減少、感染拡大防止対策等により今まで通りに行事を行うことが困難である。しかしながら、人間的な成長の大きな機会を無くすることがないように実施形態や時期、複数行事の併催等、新しい形での実施方法を探っていく。 ・友人関係に悩みを抱える生徒も少なくない。家庭との連絡を密にし、最適な解決策を施せるよう、SG、SSW等とも連携しながら丁寧に対応していく。

3	キャリア教育の充実	①3年間を見通した進路指導 ②教育活動全般を通じた意識付け ③総合的な探究の時間と連動したキャリア教育 ④進学（特に4年制大学）への意識付け ⑤新大学入試制度への対応 ⑥キャリアパスポートへの対応	1年次から卒業後の進路について考えさせる機会を設け、体系的に進路指導関係の事業を取り入れながら計画的に実施している。今年度はインターンシップが実施不可となったため、リモートを活用した進路講演会を実施した。3年次には生徒個々に担当教員を割当て、面接や小論文、学習指導について丁寧な指導を行っている。	B	進学・就職も大変だったと思うが、ほぼ全員進路が決まって良かった。 保護者アンケートから学力向上と自宅学習についての課題があがっているようだが、これは学校だけではなく個人の意識や家庭の協力も必要である。	・次年度の就職は厳しくなることが予想される。迅速な情報提供と、個人毎の指導体制を今まで以上に強固にして、希望進路を実現させる。 ・大学進学を希望する生徒について、学力不足が感じられる場面があった。基礎学力を向上させていく工夫をしていく。
4	地域・関係機関との協働 保護者等への的確な情報提供	①地域等の協働での「人づくり」 ②ボランティア活動の充実 ③「まちづくり・まちおこし」の担い手の養成 ④保護者との連携 ⑤学校ホームページの活用と積極的更新 ⑥報道機関との積極的連携と情報発信	例年、地域と連携しながら実施している多くの行事が中止となった。そのような中でも、協力していただける団体や講師の方々の力をお借りしながら、出来る範囲で工夫しながら、最大限の活動が出来た。考えながら、探りながら実施に漕ぎ着けた経験は生徒のみならず、教職員にとっても貴重な経験となった。今後に生かしていく。	B	コロナ禍で2年目となるので、今年の経験を生かし、更なる工夫を凝らし、できる限りの活動を実施し、成果達成を目指していただきたい。 P T A 活動についても保護者数も減少するようなので、できる範囲の活動で良いのではないかと。	・今年度と同様に多くのイベント実施の可否が不透明であるが、企画段階では実施することを前提として計画を進め、規模縮小や実施形態の工夫も念頭に置きながら臨機応変に対応していく。 ・2年後の閉校を見据え、学校ホームページを活用して生徒の活動を積極的に発信するとともに、報道機関への情報提供を積極的に行う。

(11) 総括	<p>生徒からの授業アンケート、保護者からのアンケート、教職員による校内分掌の相互評価を基に学校評価を実施した。その結果、本校の特色ある教育活動について、保護者や地域の方々には概ね理解を得られている。本校に望むこととして「社会性を育てる」「希望する進路を達成させる」「学力を向上させる」が高い割合であげられている。</p> <p>生徒の社会性を育むため、地域や外部団体の方々の力をお借りしながら、実習や体験を多く取り入れた本校の特色ある教育活動を可能な限り実施できるよう工夫と改善を重ねて実施に導いていきたい。</p> <p>基礎学力の向上、そのために不可欠な家庭学習習慣の確立については、保護者、教職員ともに必要性を感じていることから、生徒自身の学習意欲をかき立てられるよう、より一層工夫を重ねながら指導に取り組んでいく。</p> <p>本校で育んだ社会性（人間力）と学力をもって個々が希望する進路を達成するために、3年間を見通した進路指導を引き続き実践していく。</p> <p>校外の行事や取り組み、地域の外部講師を多く活用した授業などは、評議員の方々からも高い評価を得ることができた。今後、生徒・保護者の数が減少していく中での活動の在り方や、コロナ禍における行事等の在り方についても貴重なご助言をいただくことが出来た。今回の指導、助言を踏まえ、次年度以降も生徒の人間力育成の一端となれるよう教育活動を継続していく。</p>
---------	--